

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 本文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この場面の山は、禁止の「なかれ」「あるべからず」、助動詞「む・ぬ・たり・けり」、養由・紀信の中国故事、そして「忠=孝」という主題です。

あらすじ＝足利尊氏の大軍を迎え撃つため、楠木正成は兵庫（湊川）へ下る。この戦いを最期と覚悟した正成は、桜井の宿から、供をしてきた嫡子正行を故郷の河内へ帰すことにし、泣きながら教え（庭訓）を残す。獅子が産んだ子を石壁から投げ落として鍛える話を引き、「まして、おまえはもう十歳を過ぎている。私の教えに背くな」と言う。そして「自分が討ち死にして尊氏の世になっても、命惜しさに降参してはならない。一族が一人でも生き残る間は金剛山にこもって戦い、養由基の矢の前に身をさらすように命を惜しまず、紀信の忠節になぞらえて忠義を貫け。それこそがおまえの第一の孝行だ」と説く。言い含めたのち、父と子は東と西へ別れていった。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

正成、兵庫に下りけるが、櫻井の宿より、^①嫡子正行を河内へ^②帰し遣はさんとて、泣く泣く^③庭訓を残しけるは、「獅子は子を産みて三日を経る時、数千丈の石壁より、これを投ぐ。その子、獅子の^④機分あれば、教へざるに中より跳ね返りて、^⑤死する事を得ずといへり。^⑥いはんや汝、すでに十歳にあまりぬ。一言耳に留まらば、我が教誡（けうかい）に^⑦違ふ事なかられ。

この一戦、天下の^⑧安否と思ふ間、汝を、これより帰しつかはすなり。正成すでに討ち死にすと^⑨聞かば、天下は必ず^⑩將軍の代になりぬと心得べし。しかりといへども、一旦の身命を助からんがために、多年の忠烈を失ひて、降人に出づる事、^⑪あるべからず。

^⑫一族若党の一人も生き残りたらんほどは、金剛山の辺りに引き籠りて、敵寄せ来たらば、^⑬命を養由が矢さきに懸け、^⑭養由を紀信が忠に比すべし。これを汝が第一の孝行と思ふべし。」

正成、涙を押さへて、泣く泣く申し含めて、おのおの東西へ^⑮別れにけり。

語注 正成＝楠木正成（くすのきまさしげ）。後醍醐天皇に仕えた武将。兵庫＝今の神戸市のあたり。このあと湊川（みなとがわ）の戦いが行われる地。櫻井の宿＝西国街道の宿場。今の大阪府島本町のあたり。嫡子＝家を継ぐべき正式な跡取りの子。正行＝楠木正行（まさつら）。正成の長男。河内＝今の大阪府東部。楠木氏の本拠地。庭訓＝家庭での教え。親が子に残す教訓。数千丈＝きわめて高いこと。「丈」は長さの単位。機分＝生まれつきの素質・資質。中＝空中。落ちていく途中。いはんや＝まして。教誡＝いましめ教えること。教え。違ふ＝そむく。従わない。安否＝無事かどうか。ここでは、世の中が治まるか乱れるか。將軍＝足利尊氏（あしかがたかうじ）。身命＝いのち。忠烈＝激しく強い忠義の心。降人＝降参した人。若党＝主君に仕える若い家来。金剛山＝河内と大和の境にある山。楠木氏の根拠地。養由＝中国・春秋時代の楚（そ）の弓の名手、養由基（ようゆうき）。紀信＝漢の高祖（劉邦）の忠臣。※この場面＝『太平記』巻十六「正成兵庫に下向の事」の一節。足利尊氏の大軍を迎え撃つため。兵庫へ向かう正成が、桜井の宿で嫡子正行を河内へ帰し、最後の教えを残す場面。正成はこののち湊川の戦いで討ち死にする。

桜井の別れ

A 語句の意味と読み (1～7)

- (1) ① 「嫡子」の読みと意味を書け。
- (2) ③ 「庭訓」の読みと意味を書け。
- (3) ④ 「機分」の意味を書け。
- (4) ⑥ 「いはんや汝、すでに十歳にあまりぬ」の「いはんや」の意味を書け。
- (5) ⑦ 「違ふ事なかれ」の「違ふ」の読みと意味を書け。
- (6) ⑧ 「安否」の読みと、ここでの意味を書け。
- (7) ⑫ 「一族若党の一人も生き残りたらんほどは」の「若党」の意味を書け。

B 文法 (8～14)

- (8) ② 「帰し遣はさんとて」の「ん(む)」の文法的意思と活用形を書け。
- (9) ⑤ 「死する事を得ずといへり」の「り」の文法的意思と活用形を書け。
- (10) ⑥ 「いはんや汝、すでに十歳にあまりぬ」の「ぬ」の文法的意思と活用形を書け。また、そう判断できる決め手も書け。
- (11) ⑦ 「違ふ事なかれ」の「なかれ」を文法的に説明せよ。また、この言い方が表す意味も書け。
- (12) ⑨ 「聞かば」の「ば」の意味・用法を書け。
- (13) ⑪ 「あるべからず」を、助動詞に注意して文法的に説明せよ。
- (14) ⑮ 「別れにけり」の「に」と「けり」を、それぞれ文法的に説明せよ。

C 主語・指す内容 (15～18)

(15) ⑤ 「死する事を得ずといへり」とあるが、死なずにすむのは何か。主語を明らかにして、どうなることかもあわせて書け。

(16) ⑨ 「聞かば」とあるが、聞くのは誰か。

(17) ⑩ 「將軍」とは誰を指すか。

(18) 「これを汝が第一の孝行と思ふべし」の「これ」は、何を指すか。⑫～⑭をふまえて書け。

D 口語訳 (19～22)

(19) ④・⑤をふくむ「その子、獅子の機分あれば、教へざるに中より跳ね返りて、死する事を得ずといへり」を口語訳せよ。

(20) ⑥ 「いはんや汝、すでに十歳にあまりぬ」を口語訳せよ。

(21) ⑪をふくむ「しかりといへども、一旦の身命を助からんがために、多年の忠烈を失ひて、降人に出づる事、あるべからず」を口語訳せよ。

(22) ⑫ 「一族若党の一人も生き残ららんほどは」をふくむ「一族若党の一人も生き残ららんほどは、金剛山の辺りに引き籠りて」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (23～25)

(23) ⑥ 「いはんや汝、すでに十歳にあまりぬ」の前に、獅子が子を石壁から投げ落とす話を置いたのはなぜか。「いはんや」の働きにふれて書け。

(24) ⑧ 「安否」の語を使って、正成が正行をここから河内へ帰らせた理由を書け。

(25) ⑭ 「義を紀信が忠に比すべし」のあとに「これを汝が第一の孝行と思ふべし」とある。正成の庭訓の主題を、「忠」と「孝」の語を使って書け。

F 文学史・故事 (本文全体をふまえて答える) (26～28)

(26) ⑬ 「命を養由が矢さきに懸け」の「養由」とはどのような人物か。簡単に書け。

(27) ⑭ 「義を紀信が忠に比すべし」の「紀信」とはどのような人物か。簡単に書け。

(28) この文章の出典『太平記』は、どのような作品か。ジャンルと、描いている時代を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①禁止の言い方が二つ出ます。⑦「違ふ事なかれ」(～するな)と⑪「あるべからず」(～てはならない)。どちらも「～してはいけない」。正成の庭訓はこの禁止と命令の連続でできています。②養由=弓の名手、紀信=身代わりの忠臣。⑬⑭の中国故事は「誰の、どんな行いか」までセットで答えられるように。⑬と⑭は「命を～懸け」「義を～比すべし」と対句(命⇔義、養由⇔紀信)になっているので、二つセットで覚えておきましょう。③主題は「忠」と「孝」が一つになること。生きて忠義を貫くことこそ第一の孝行、が答えの軸。父のそばで死ぬのが孝行だと書くと外します。